

施策評価シート

対象事業年度 令和元年度

施策4

政策	Ⅲ 環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり	施策推進 責任者	企画調整室長・総務部長・港営部長・建設部長
施策	4 うらおいと魅力のある港湾空間の形成		

1. PLAN(目的・展開内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	地域住民、来訪者、就業者など名古屋港に集うあらゆる人びと	意図(どういう状態にしたいのか)	ガーデンふ頭のイベント開催等により港湾空間の更なるにぎわいや魅力を創出するとともに、名古屋港水族館などのにぎわい施設を活用し、ときめきとやすらぎを感じ、親しまれ、みんなの夢がふくらむ港
	サービスの対象物(何を)	親しまれる施設(集客施設・運河など)やイベントなど		
展開	ふれあい交流拠点であるガーデンふ頭において、海の日名古屋みなと祭や船舶の一般公開等、年間を通じて様々なイベントを開催・支援するとともに、SNS等によるタイムリーな情報発信により、名古屋港の魅力向上・拡散の取組をすすめます。また、ガーデンふ頭の名古屋港水族館や、新舞子マリンパーク、富浜緑地の運動施設等の観光・にぎわい施設を最大限に活用し、港のにぎわいを継続的に創出します。中川運河において、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導や、水循環による水質の改善など、運河再生に取り組むとともに、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成をすすめ、都心部のにぎわいを港に誘導します。港のにぎわい創出や観光振興、地域経済の活性化等を目的として設立された「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じ、クルーズ船社等へのセールスやクルーズ船寄港時の歓迎行事・観光案内を行う等、クルーズ船寄港増加に向けた取組をすすめます。クルーズ船の受入れについては、旅客の利便性や安全性の確保を最優先に考え、より一層受入れ環境の充実・改善に取り組みます。			

2. DO(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	元年度実施事業に基づく評価結果			元年度の 状況	2年度以降の方向性		事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等	
			29年度	30年度	元年度		成果	コスト		
施04 事01	名古屋港のPR (広報・にぎわい振興担当)	Facebookページ投稿へのい いね等の数 【単年度管理型】	8,000件 7,538件 153,377千円	8,000件 17,060件 149,539千円	17,000件 22,900件 145,858千円	19,000件	目標 値を上 回る	継続	維持 縮小 資源(財・人)の投入を減らしなが ら、取組を継続し、成果を維持す る必要がある。	令和2年度の「海の日名古屋港まつり」は開催中止となりコスト縮小としましたが、名古屋港への関心を高め、理解が深まるよう、引き続き取り組んでいく必要があるため。
施04 事02	名古屋港水族館の振興 (水族館事業担当)	入館者数 【単年度管理型】	221万人 222万人 1,115,053千円	221万人 211万人 776,990千円	220万人 200万人 937,896千円	230万人	目標 値をやや 下回る	継続	拡大 拡大 資源(財・人)の投入を拡大し、取 組を強化することによって、成果 をあげる必要がある。	新型コロナウイルスの影響による臨時休館で入館者数の大幅な減少が見込まれるため、必要な管理経費を支出し営業を再開し入館者数を回復する必要があるため。
施04 事03	金城ふ頭における円滑な交流拠点 開発の推進 (金城・中川・南5区担当)	港湾関係者等の意見に対応 した割合 【単年度管理型】	100% 100% 18,380千円	100% 100% 13,829千円	100% 100% 11,926千円	100%	目標 値どお り	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、物流機能との共存を図って、交流拠点開発を推進し、魅力ある港湾空間を形成する必要があるため。
施04 事04	魅力ある港湾景観の形成 (環境担当)	カラー計画マニュアルとの整 合性率 【単年度管理型】	100% 94% 2,799千円	100% 88% 2,836千円	100% 100% 3,698千円	100%	目標 値どお り	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	引き続き、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要があるため。
施04 事05	名古屋港ポートビルの管理・運営 (関連事業担当)	入館者数 【単年度管理型】	51万人 93,087千円	46万人 65,942千円	45万人 152,789千円	48万人	目標 値をやや 下回る	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	引き続き、海事に関する知識の普及を継続する必要があるため。また、目標値をやや下回るものの、概ね達成しているため成果・コストは維持とします。
施04 事06	名古屋港湾会館の管理・運営 (関連事業担当)	会議室の利用率 【単年度管理型】	33% 26% 35,895千円	33% 33% 35,389千円	33% 32% 69,803千円	35%	目標 値をやや 下回る	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	引き続き、港湾関係者を始めとした利用者に会議室の提供を継続する必要があるため。また、目標値をやや下回るものの、概ね達成しているため成果・コストは維持とします。
施04 事07	臨港緑地の管理・運営 (関連事業担当)	利用者数 【単年度管理型】	38.1万人 52.2万人 286,885千円	41.7万人 52万人 362,320千円	56.2万人 53万人 539,200千円	58万人	目標 値をやや 下回る	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	港湾の緑地の整備運営は、港湾管理者の責務であるため。また、運動施設・緑地等の管理・運営により、港の賑わいと憩いの空間の創出に繋げるため。また、目標値をやや下回るものの、概ね達成しているため成果・コストは維持とします。
施04 事08	中川運河緑地(堀止地区)整備事業 (事業推進課)	整備面積 【進行管理型】	0.82ha 4,319千円	0.83ha 24,333千円	0.84ha 14,764千円	1.1ha	順調	延伸	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	名古屋市の土地区画整備事業の事業期間の延伸に伴い、事業完了年度を延伸する必要があるため。 ※今回の評価にて事業完了年度を延伸(令和3年度→令和4年度)
施04 事09	中川運河水質改善事業 (事業推進課)	事業の進捗状況(全7工程) 【進行管理型】	4工程 4工程 16,581千円	4工程 4工程 36,515千円	4工程 4工程 14,009千円	7工程	順調	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	中川運河の良好な水環境の創出のため、松重ポンプ所の改修を進めていく必要があるため。
施04 事10	海上交通ネットワークの形成 (金城・中川・南5区担当)	金城ふ頭小型棧橋整備の進 捗状況(全4工程) 【進行管理型】	1工程 19,138千円	1工程 43,209千円	2工程 43,209千円	4工程	順調	継続	維持 維持 取組及び資源(財・人)の投入は 妥当である。現状を維持する。	利便性の向上を図りながら、海上交通ネットワークを形成し、うらおいと魅力を創出する必要があるため。
施04 事11	クルーズ船誘致の推進 (誘致推進課)	情報発信数 【単年度管理型】	4件 46,268千円	21件 97,495千円	10件 18,732千円	40件	目標 値どお り	継続	縮小 縮小 資源(財・人)の投入を縮小し、取 組を一時的に縮小する。	「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて港のにぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を進める必要があるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の外航クルーズ船社等へのポートセールス実施が困難であるため成果・コストを縮小とします。
施04 事12	クルーズ船乗客の安全で円滑な受 入対応 (誘致推進課)	受入対応に起因する事故件 数 【単年度管理型】	0件	0件	0件	0件	目標 値どお り	継続	維持 縮小 資源(財・人)の投入を減らしなが ら、取組を継続し、成果を維持す る必要がある。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度のクルーズ船の寄港が見通せないため、コスト縮小としましたが、今後も安全かつ円滑なクルーズ船の受入態勢を確保していく必要があるため。
施04 事13	ガーデンふ頭地区屋根付き通路整 備事業 (事業推進課)	事業進捗率 【進行管理型】	100% 8.0%	100% 43.0%	100% 43.0%	100%	遅れ	延伸	拡大 維持 資源(財・人)の投入は維持した まま、取組を強化することによっ て、成果をあげる必要がある。	入札不調により着手時期が遅れたことにより、令和2年度に確実に整備を完了する必要があるため。 ※今回の評価にて、事業完了年度を延伸(令和元年→令和2年度)
施策コスト(合計)			1,772,644千円	1,594,826千円	2,025,091千円					

3. CHECK(成果目標の状況・元年度の取組内容など)

施策 成果目標	実績等		29年度	30年度	元年度	目標値 [5年度]	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	目標値	人	830万	830万	754万	800万	
交流施設の来場者数	実績	人	803万	738万	714万		・令和元年度の交流施設の来場者数は、名古屋港水族館では、3年連続200万人を越え、金城ふ頭では、7月に「レゴランド®・ジャパン」の拡張が行われましたが、目標値は下回りました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各施設が臨時休業したことや人々の外出自粛による影響が要因と考えられます。
クルーズ船入港隻数	(仮目標値)*	隻	40	40	45	60	・令和元年度のクルーズ船入港隻数は、台風による寄港中止や新型コロナウイルス感染症の影響に伴うツアーの中止等により目標値を下回りました。
	実績	隻	35	44	26		・両目標値については、今後の新型コロナウイルス感染症の影響を見極めながら見直しも含めて検討します。

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正・見直しが必要	<ul style="list-style-type: none"> ・「名古屋港のPR」について、令和元年12月からInstagramを開始したため、成果目標値及び令和2年度以降の目標値を見直します。 ・「名古屋港水族館の振興」、「名古屋港ポートビルの管理・運営」について、新型コロナウイルス感染症の影響を見極めながら目標値について見直しも含めて検討します。 ・新型コロナウイルス感染防止に向け、催事や施設の感染予防対策の事務事業について検討します。

4. ACTION(課題・2年度以降の取組方針)

元年度に取り組んだ内容
事務事業01 名古屋港のPR 練習帆船1隻及び練習汽船2隻並びに南極観測船「砕氷艦しらせ」の誘致・一般公開の実施、「海の日名古屋みなと祭」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行いました。また、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(14回)の製作、ホームページ及びFacebookページの運営、Instagramの開始、「みなと防災体験ツアー」の実施(2回)、マスコットキャラクターによるPRの実施(イベント参加12回)や民間活力による花火イベントの調整協力を行いました。
事務事業02 名古屋港水族館の振興 平成31年3月にリニューアルオープンした「ウミガメ回遊水槽」や特別展「寿司ネタ大集合〜水族館が斬る! 寿司のいろいろ〜」、「カラフルコレクション〜絢爛華麗な水の生き物たち〜」がメディアで話題を呼び好評を得るとともに、テレビCMやSNSを活用した広告宣伝を始め、県外地域へも広報活動を積極的にを行い、入館者数が平成4年開館以来初の3年連続、200万人を超えました。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため、令和2年3月2日から3月31日まで臨時休館しました。
事務事業03 金城ふ頭における円滑な交流拠点開発の推進 大規模イベントにおける交通対策等について、交流施設関係者や名古屋市と連携し、港湾関係者からの意見等に対応しました。また、国際展示場新第1展示館整備等に伴う調整を名古屋市と行いました。
事務事業04 魅力ある港湾景観の形成 名古屋港カラー計画について24件の審査を行い、景観アドバイザー制度について2件の相談を受けました。また歴史資源である築地灯台の維持管理マニュアルについて検討を行いました。
事務事業05 名古屋港ポートビルの管理・運営 海洋博物館において、伊勢湾台風から60年の節目に、企画展「古地図から学ぶ尾張の歴史〜名古屋港から防災を考える〜」を開催したほか、南極観測船ふじにおいて、砕氷艦「しらせ」の寄港に合わせ、南極の自然環境や南極観測事業の理解を深めていただくことを目的とした「南極教室」を開催しました。 展望室、海洋博物館及び南極観測船ふじは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月2日〜3月31日まで臨時休館しました。
事務事業06 名古屋港湾会館の管理・運営 会議室の利用促進に努め、2414件の利用がありました。
事務事業07 臨港緑地の管理・運営 臨港緑地の提供を行い、施設を良好に管理しながら、更なる利用促進に努めました。
事務事業08 中川運河緑地(堀止地区)整備事業 水辺一体の緑地整備として、既設構造物撤去、整地等を行いました。
事務事業09 中川運河水質改善事業 関連工事の入札不調により松重ポンプ所の排水管の設置はできませんでしたが、既設構造物の撤去を行いました。
事務事業10 海上交通ネットワークの形成 海上交通ネットワークの利便性の向上に向けて、金城ふ頭小型桟橋の基本設計を行いました。また、中川運河において水上交通定期運航・モニタリング調査を実施しました。なお、中川運河における水上交通定期運航は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日〜3月31日まで運休しました。
事務事業11 クルーズ船誘致の推進 クルーズ需要喚起に向け、ホームページやフェイスブックを活用し、船内見学会の参加者募集やクルーズ船寄港予定のほか、クルーズセミナー開催の情報を発信しました。
事務事業12 クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応 クルーズ船の寄港状況に合わせた受入対応を検討し、船舶代理店、関係官庁と協議し、業務委託先と事前打合せを行い実施しました。
事務事業13 ガーデンふ頭地区屋根付き通路整備事業 屋根付き通路の設置に着手しました。

課題	2年度以降の取組方針
利用者にとって、わかりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要です。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、イベント開催の可否を判断するとともに、イベント開催時における感染防止対策の実施が必要です。	情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていきます。また、新型コロナウイルス感染症の状況により、2年度の「海の日名古屋港まつり」は開催中止となりましたが、イベント開催時は感染防止対策を適切に実施し、にぎわい創出に取り組んでいきます。
来館者に安全・安心して観覧してもらえるよう、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を強化する必要があります。また、引き続き、水族に関する知識を広め、水族への親しみを深めることにより、海洋文化の普及に努めていく必要があります。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を実施するとともに、水族館の活動や水棲生物への興味・理解を深めてもらえるよう、Web等を活用した情報発信など、新たな取組を進めていきます。
交流拠点開発の推進に際しては、港湾関係者の理解を得て、物流機能を阻害しないようにしていく必要があります。	物流機能と共存した交流拠点開発に向け、引き続き、交流施設関係者や名古屋市と連携し、港湾関係者の理解が得られるように意見等に対応していきます。また、国際展示場新第1展示館整備等に伴う調整を引き続き名古屋市と行っていきます。
引き続き新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者の説明していく必要があります。また、構造等を把握するための既存資料がない歴史資源についての維持管理方法を検討する必要があります。	臨港地区内行為の届出時等において、カラー計画マニュアルと整合が図られるよう調整していきます。また、歴史資源の構造や保存状況等を既存資料だけでなく現場で確認するなど、各施設に応じた維持管理マニュアルの作成を進めていきます。
安心して利用してもらえるよう、感染症の拡大防止対策を強化する必要があります。	感染症に伴う臨時休館等を踏まえた取組として、感染症の拡大防止対策を実施するとともに、webを活用して名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力を広げ発信していきます。
利用率の向上に向けた周知や営業等の取組とともに、安心して利用してもらえるよう、感染症の拡大防止対策を強化する必要があります。	施設の良い維持管理、高質な利用者サービスの提供及び感染症の拡大防止対策に努めるよう指定管理者に対し、指導・助言を行います。
効率的な施設の維持管理に努めるとともに、安心して利用してもらえるよう、感染症の拡大防止対策を強化する必要があります。	モニタリング等を強化し、施設の良い維持管理と高質な利用者サービスの提供及び感染症の拡大防止対策に努めるよう、指定管理者に対し指導・助言を行います。
中川運河緑地(堀止地区)については、事業期間を延伸するとともに、名古屋市関連事業と調整を図りながら一体的な緑地整備を進める必要があります。	名古屋市関連事業と連携して、引き続き、親水緑地の整備を進めていきます。
中川運河水質改善施策を推進するためには、関係者とのさまざまな調整が必要です。	令和元年度に予定していた排水管の設置を確実に行うとともに、水質改善事業については、引き続き、関係者と調整を行い、着実に事業を進めていきます。
海上交通ネットワークの形成に際しては、利便性を向上していく必要があります。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整する必要があります。	海上交通ネットワークの利便性の向上に向けて、金城ふ頭小型桟橋の実施設設計を令和2年度に行い、令和4年度の供用を目指して整備を進める予定です。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していきます。
新型コロナウイルス感染症により、クルーズ船寄港に係る県民・市民の不安の高まりが考えられます。よって、これまでに行ってきたクルーズ需要喚起のための情報発信のみならず、クルーズ船の感染拡大予防ガイドライン等の情報発信を実施していく必要があります。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度のクルーズ船の寄港が見通せないものの、再開後はクルーズ需要喚起に向けた情報発信に取り組むとともに、クルーズ船受入時における感染拡大予防対策など、安全・安心の取り組みを県民・市民に対し情報発信していきます。
クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応を行う上で、通常の受入態勢に加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防措置を講じる必要があります。	通常の受入態勢の継続に加え、クルーズ船運航船社や関係官庁等と協議・調整の上、新型コロナウイルス感染症禍における必要な受入態勢を整えるとともに、船社や受入港湾のガイドライン等に基づき、受入時の感染拡大予防措置に取り組んでいきます。
屋根付き通路の設置をするためには、関係者(クルーズ船運航会社等)と調整を図りながら、令和2年度の完了を目指して整備を進めていく必要があります。	関係者調整を行いながら、令和2年度の完了を目指して、着実に整備を進めていきます。